

白鷹山口ゲイン2008

2008年9月28日 (山形県山形市、外白鷹山周囲5市町)

山形県協会
武石雄市

参加者数が少なく、豪華な賞品のゲット高確率。

シリーズポイントも高得点。

その反動は赤字だった。

「狐越え峠」で見た狐火。

食用不明のまま食べた茸。

運営体験を語る大会チーフ。

■ 誘い水は苦かった ■

2007年暮れ、財政ピンチの協会立て直し策としてJOA専務理事からロゲインシリーズの開催を打診された。当初、運営はおろか参加したことも見たことも無かったので「無理です」と答えていたが、そのときに聞いた地図は国土地理院発行の2万5千で調査も要らないし運営も小人数で出来るという甘い言葉が脳にこびりつき、そんなに美味しいのなら、と、年が明けてつい手を挙げてしまった。

ところが開催日が菅平と重複し、相手のネームバリューに調整をする気も薄れ、すごすごと2週間ずらして開催日を決めた。今、思い返すとそのとき開催断念すべきだったと悔やんでいます。

チラシも大量に宅配され、さくらんぼ大会や県内の公共施設に持ち込んで配布依頼。

予定地域の下見も終わり、国土地理院長の複製許可も取り参加申込を待つばかりになったが、問い合わせは数件来たが一向に申込がない？

締め切りを二日後に控えて合計18名。悪い予感的中して結果的に合計32名だけの寂しい参加数だった。

白鷹山一帯に湧出する地下水はとても美味しく、休みともなると山形市を始め近在から水汲みの車が列を成すこともある。しかし、大会責任者の老体には支出超過の処理策で頭がいっぱいになり苦い水となってしまった。

気候的にも安定したこの時期は各地で様々なイベントがあり、オリエンテeringガイドを見るとこの種の大会が枚挙されていた。

収支予算を立てる際、参加者数を50名に見積もったが、見積もりを20名近く下回り、懸念された収入減は責任者の負担となって押し掛かり毎度のように家族に心配を掛けてしまった。

■ 危険だった設置の下見 ■

8月下旬、ポスト予定地が確定、2万5千の地形図を持って競技エリアの北側から下見に入った。さすがに神社仏閣のポスト予定地にはそれなりの道があったが、民家の近くだから道があるだろうと予定した場所は、住民の高齢化で耕作地や里山が荒れ放題となり、山の周囲を探索しても密集して繁茂する草木で踏破することが出来ずポスト位置に向かず放棄した。

徒歩だけでは遅々として進まないのでも可能な限り車を乗り入れることに決心し、近くの住民に車進入の可否を尋ねて曖昧な応えに疑心を抱きながら進入して、湿地につかまり車の反転に数時間掛かったことも・・・片側が急峻な谷で山側は崖で狭い山道で抜き差しならない事態になり、数百メートルの草深い山道を一人でバックしたときは本当に命がけで必死でした。

下見は二日間で楽勝と思っていたが三日掛けても残ったルートを地図印刷後に確認に入り驚いた。白鷹神社参詣道の沢道が数百メートルの距離一面が熊笹と蒿に覆われていた。何とかして尾根道に辿り着こうと背丈ほどの草を掻き分けて登ってみたが、相当の時間が掛かることが分かり、地形的にもパラレルエラーの危険性あり、このポストは適切でないことで除外することを決心し引き返した。途中、稲刈りをしていた近くの住民に参詣道のことを尋ねると春先に利用するだけで、夏草の多い今は通る者は皆無という。

ポスト設置も当然のように3日掛かった。

ここで閑話休題。

設置で東黒森山に登る途中、これまで見たことも無い白いきのこが誰の手もつかずに直径約30メートルにも及び群生の輪になっている群生地を発見した。北海道や東北の山地に常状に自生する白シメジに良く似ているが全体が小ぶりで傘圧も薄く、匂いも白シメジ独特の食性の香り高い高貴の匂いではない。長年の経験から形状も匂いも食用に大丈夫と確信したが、念のため茸に詳しい県民の森学習展示館所長に鑑定を依頼したが付近の住民ともども名前も確定できないし、もちろん食べたことが無いと言う。



採取したキノコを接写



群生してる自生の状態

ひょっとしたら新種？ とりあえず試食用に一掴みほど採取し家に持ち帰った。翌日、家内に止められたが試食してみた。お勧めするほど美味しくはなかったが体調に変化は無かった。

肉や魚と煮物にするなら味が滲みて美味しくいただけるかもしれない。図鑑を調べてもいまだ名前は不明です。

■ 美味しかった芋煮 ■

季節柄山形は芋煮会シーズンの真っ盛り、要項にゴール後の芋煮を提供と書いてしまった手前何とかして用意しなければならぬ。参加者が32名とはとんだ見積もり違いで、出来上がりを業者に運搬させようと安易に考えていたがあっけなく方針転換せざるを得ない。家内と相談し材料を購入して会場で火を起こして炊き上げることとした。そのため役員が一人芋煮作りに付き切りになり、急遽惹起した少年自然の家とのトラブル対処その他で老体は会場に落ち着く暇が無かった。

実は芋煮を作るに当たって役員に本場の山形県出身者が誰も居ない。見よう見真似で作る羽目になったが、幸い同じ会場で芋煮会をしている団体の方が作り方を親切に手ほどきしてくれ、3時間クラスと6時間クラスのゴール時刻に十分間に合い、予定時刻よりかなり早く出来上がった。参加者に提供する前味見と称して1杯食べてみたが美味しくて味見を2杯もお代わりしてしまった。

■男子優勝チームスキーO■

6 時間クラスの参加チームは全部で 10 チーム 23 名。男子 4 チーム女子・混合チームが 6 チームだ。

アドベンチャーレーサーも何名か居るようで、参加者が少ない分、シリーズ戦のポイント獲得率は限りなく高い。

前日、県民の森エリアのコントロールにスズメバチの巣が判明、幸い休息用四阿屋の屋根で記印ポストを遠くに離隔することで影響を回避し、尚且つテープで近づけないように処置をした。

競技エリア地図は 8.4km×12.3km で縮尺 2 万 5 千分の 1 では A3 サイズに収めきれず縮尺を 3 万分の 1 で印刷、1 万の「沼の森」と表裏でポリ袋パックした。

ゴール後に参加者から感想を聞くと「難しかった」と答えが返ってきたがポストを広範囲に散し一筆書きでルートが決められなかったこと、地形図の凡例記号の認識不足から境界線を道と誤認していたこと等が原因のようだ。

このエリアで又大会を開くなら 9 時間クラスでも耐えられそうだ。

高得点チームはエリアの北側一帯をはじめから捨てて体力を維持できるように巡航速度を最初からローペースにしたことが勝因だったようだ。



男子クラスの入賞チーム

シリーズ高得点を獲得したチーム

男子 チーム名	点数
1 TeamSKI-O	1310
2 東工大美術部	1290
3 臼俱樂部	1170
4 JJ といっしょ	1060

女子 混合 チーム名	点数
1 TEAM 阿蘭梨&SKI-O	1133
2 とれとれ北日本	1117
3 入間市 OLC	1073
4 Team SKI-O	1007
5 Not'z+	767
6 チームインリン	726

入賞チームには市販価格 7 万円の賞品が贈呈され、シリーズ得点も一挙に上位にランクしたチームもあり、榮譽を称えこの大会に参加した意義を共に喜びたいと思います。

■人を化かす狐越街道と 撤収で見た青い狐火■

参加者の皆様、「白鷹山ロゲイン」の地形図にとある峠に狐越の文字が印刷されていますが発見されましたか。

白鷹山と西黒森山の中間、うっそうとした林間を山形市から朝日町へ東西に抜ける細い旧道の峠に小さく記載されています。この付近は現在でも狐が住んでいるらしく大会当日も狐に化かされたとか次のような話が付近に広がっていた。

— あの日、西黒森山の北側、馬索原高原で老夫婦が市場に出す大根の収穫をしていた。収穫した大根が普通トラック一杯になり、「ばあさん、そろそろ昼だべや、飯にすっべえ」と車に乗り込んだ。そこを二人の男が車の脇をスーッと走り抜けていった。老夫婦の車もその後を追いかけるように走

せた。ところが左に 90 度のカーブを曲がったとたん、二人の男の姿が消えていた。

カーブは左折すると数百 M の直線で車は男たちから数十 M しか離れていなかった。突然に消えた男たちに老夫婦は二人とも目を疑い、とても気味が悪くなり帰宅して家族の皆に話したのだそう。家族に皆は笑い転げて、「オラエのじいちゃんとかあちゃんが昼間から狐に化かされた」と言いふらしたが、確かにこの目で見た老夫婦は自分たちの確かさに疑いを持たず納得できないで居た —

その二日後、ポスト撤収で相変わらず大根収穫をしていた老夫婦にその話を聞いた筆者も、ロゲインレース中のチームに違いないことに確信し、しかし、いまだに残る狐の化かしあい伝説に笑い転げた。

ところがドッキリ！！その日、昼にする時間も惜しんで撤収に走り回り、ある場所でプラスチックハンマーが確かに置いてある所から音も無く消えて見つからなくなったり、撤収が遅くまでかかり 6 時を過ぎ、日がとっぷり暮れ真っ暗な杉林の中、懐中電灯も無く足元の勘を頼りに歩いていたとき、ふと後を振り向くと二つの光る点が見えた。構わず小走りに前進すると今度は百メートルほど先に青白い光が動いた。自分が進むのをとめると青白い光も止まり、歩くと又光が発生する。

それはまさしく狐火だった。

本当に久しぶりに見た。約 40 年前、帯広に在勤中、休暇で裏大雪の名山であるニベソツ山に夜間登山して以来だ。

あの時は恐ろしいヒグマに出くわすおそれがあったので熊よけの鈴を鳴らして歩いたが、それでも狐たちが数匹後にと前に同じ歩調で歩いてくれた思い出が甦った。

ロゲインをはじめて運営してみたが役員が少ない分何くれと無く一人で動かざるを得なかった。その分、様々なことが沸き起こり、この歳にして印象に残る大会となった。

私にしては、珍しく跡整理も速く終わった。来年も、この地で狐に化かされてみたいなあ。

(武石雄市)



女子/混合クラスの入賞チーム